



DENTAL CLINIC

都立家政南口歯科

QUESTION

中心結節とは

永久歯の咬合面(噛み合わせの面)の中心に円錐状の「ツノ」のようなものがみられることがあります。これを中心結節と言います。

下顎の第二小臼歯(前歯から数えて五番目の歯)にみられることが最も多く、発生頻度は数%と言われています。中心結節は咀嚼により、気づかいうちに折れてしまうことがあります。中心結節の内部には歯の神経の管があり、折れてしまうことで神経の管が露出し、そこにお口の中の細菌が感染することで、痛みや腫れが出たり、根の先に膿が溜まる事があります。

一度神経に細菌が感染してしまうと、痛み・腫れ取り除くためには神経を取る治療(根管治療)が必要となります。歯の神経を取ると、歯の寿命が短くなり、将来抜歯となるリスクが高くなります。

中心結節が見つかったら、中心結節の周りに樹脂を詰める事で、折れるのをある程度予防する事ができます。

乳歯からの生え変わりのタイミングで、歯科医院で中心結節の有無を確認してもらいましょう。



QUESTION

盲孔とは

上顎前歯の裏側にみられることがあるエナメル質の陥没部分のことです。

盲孔は歯の裏側にあるため、ご自身で発見することは難しく、また、陥没しているため、歯垢が入り込み、むし歯になりやすい部分です。盲孔がある場合は、シーラントで陥没部分を埋めることでむし歯を予防することができます。

すでにむし歯になっている場合は、むし歯が神経に達する前に治療しましょう。